

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2018年3月23日

[テーマ] モビリティの確保 ―広がる都市の可能性―

今後の来るべき高齢化や人口減少のもとで、モビリティ（移動の利便性）を確保するためには、自家用車だけではなく、バスやタクシー、鉄道、自転車などをうまく組み合わせた交通体系を用意しておくのが得策だ。当地には、自転車を載せることができるバスや鉄道路線があるが、アメリカの一部の都市でも、こうした光景を見かけることがある。

こうしたスマートムーブ（さまざまな交通手段をうまく組み合わせてモビリティを確保すること）に加え、街づくりの一つの方向性として、コンパクト化（都市機能の集約化）が提唱されている（例えば前橋市市街地総合再生計画）。人口がある程度まとまって居住することにより、高齢者ら自家用車を利用しにくい方が、歩いて商店街や公共施設を利用することができるようになる。

コンパクトシティーには、公共サービスの提供の効率化が図れる、小売業やサービス業の労働生産性が高くなる、といったメリットもある。小売業やサービス業は労働集約的な性質を持っているので、最近の人手不足感の強まりのなかで、どのようにして、少ない人員で高い利益を上げていくか、という工夫が欠かせない。日本銀行前橋支店が3月1日に公表したレポートでは、県内企業における労働生産性向上に向けた取り組みを特集した。こうした個々の企業の経営努力に、例えばコンパクトシティーのような街づくりの方向性がかみ合うと、小売業やサービス業の労働生産性向上の可能性はさらに広がるのではないか。

ところで、こうした社会政策の議論から離れ、個人的には、本県の大自然を自由に満喫するためのモビリティとしては、やはり愛車をもってこいだと思う。望ましいモビリティのあり方は、世代や、移動の目的やニーズ次第で異なってくるのは言わずもがなだろう。

（ 日本銀行前橋支店長  
岸 道信 ）